2023年4月9日　<u>イースター礼拝順序　(午前10時半)</u>　　(№15)

司式　杉山昌樹牧師

前　　奏　　奏楽　五十嵐美代枝姉

開　会　招　詞　　マタイによる福音書28章5－6節

＊ 賛　美　歌　　１４８:1（讃美歌）

1.すくいのぬしはーハーーーーレールーヤ よみがえりたもぅーハーーーーレールーヤ
かちどきあげてハーーーーレールーヤ　みーなーをたたえようーハーーーーレールーヤ　アーメン

＊ 開　会　祈　祷

罪　の　告　白　祈祷書2　罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。　　主イエス・キリストの御名によって。アーメン。　(詩編51)

罪の赦しの宣言

十　　戒　　祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。　(出エジプト20、申命記5)

＊ 賛　美　歌　　１４８：２（讃美歌）

2. 十字架をしのびーハーーーーレールーヤ　死にて死にかちーハーーーーレールーヤ
生きていのちをハーーーーレールーヤ　ひとにぞたまうーハーーーーレールーヤ　アーメン

公同の祈祷　15　復活節 主の復活

力の主なる神さま、あなたの御子、わたしたちの主イエス・キリストの、栄光に満ちた復活を覚えて、御名を心からほめたたえます。あなたは、御力によって、主イエスを死人の中から復活さ

せられました。墓からよみがえられた主は、わたしたちを罪の縄目と死の恐れから解放し、勝利を宣言してくださいました。あなたは、全て彼を信じる者に、神の子らの、栄光に輝く自由にあずかる特権をお与えくださり、永遠の命を約束してくださったことを感謝します。今、よみがえりの主が、わたしたちと共にいますことを覚えて、御名を心から賛美します。アーメン(Iコリント15、ローマ6〜8)。

長老・執事　任職・就職式（教会員の誓約時現住陪餐会員起立）

献　　金　　（黒）教会活動（赤）盲伝センター　　70

今献ぐるそなえものを　主よ　清めて受けたまえ　アーメン

聖　書　朗　読　　詩編16編7－11節（旧約聖書846頁）

ヨハネ20章1－9節（新約聖書209頁）

説　教・祈　祷　「神の業はここから」杉山昌樹牧師

＊ 賛　美　歌　１５４:１，３（讃美歌）

1. ちよこえたかく、つげしらせよ。きょうイエスきみは、よみがえれり。

いのちの君は、あまつそのに、われらをめして、いれたまえり。

3. あめよよろこべ、土ようたえ。ものみなともに、ほめたたえよ。イエス君きょうぞ、よみがえれる。ああ限りなき、さかえの日よ。アーメン

聖　餐　式

＊ 主　の　祈　り　　祈祷書1

天にます我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ　御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり　　アーメン。

＊ 頌　　栄　　６５

父、み子、みたまの おおみかみに、ときわにたえせず みさかえあれ。アーメン

＊ 祝　　祷

後　　奏　　（黙祷）

報　　告 司会古澤兵庫長老・受付雨宮信長老（次週：加藤良明・古澤兵庫長老）

本日　受付　１階：藤井牧子・大日南信也執事　２階：那珂信之執事　／ZOOMホスト・録音：大日南悠

次週　受付　１階：星野房子・若月学執事　２階：藤井牧子執事　／ZOOMホスト・録音：番場験也

ヨハネ20：1－10　「神の業はここから」

イースターと就職式

先ほど長老と執事の任職・就職式を行いました。新たに役職につかれる方たちが誓約をされました。そして皆様も信徒として誓約をされました。その場合に、とてもはっきりとしていることがあります。それは、この両方の誓約は神様に対しての約束であるということです。当たり前と言えば当たり前のことです。しかし、あえて言いますと、わたしたちが今いるこの会堂に神様のご臨在がある、ここにいて下さる、わたしたちの言葉を聞いてくださっている、これを信じ理解して誓約をするのです。そもそもということでしたら、わたしたちが教会に集まっておりますのは、ここに神様の業、神様のお働きがある、この事だけを頼りに集まっている、こうも言えるのです。今日はこのことを聖書を読みながら一緒に確かめていきたいのです。そして、私たち一人一人が、イエス様を見つけ出すことで、いよいよ神様がいて下さることを確信していきたいのです。

マリアの視点

しかし、いわばこのような当たり前のこと、神様がいて下さること、それもイエス様を通して、イエス様を信じることで、もう神様と一緒に歩み始めている、と言ったことが、揺らぐことがあります。例えば、今日の聖書に登場します、マグダラのマリア、そしてペテロ、もう一人の弟子と書いてある人、彼らがこの時に置かれていた状況は、ある意味では落胆だったはずです。イエス様が、金曜日に十字架につけられ、亡くなられ、夕方に墓に葬られてしまった、これが彼らのおかれた厳しい状況です。そして、そのような状況の中で見えてくるのは、どちらかと言いますと、否定的な理解であるかもしれません。これは私たちもまた、思い当たるのではないでしょうか。困難な状況の中では心が弱くなります。その場合には目の前の事実が、みな悪い方向を指し示しているように見えてしまうということがあります。この時マグダラのマリアは、墓にふたをする石が、取り除かれているのを見ました。それ自体は、確かに異常事態です。何かがあった、と思うのも当然です。そして彼女は最悪の事態、いわゆる墓荒らしを考えたようです。或いは、それしか思い浮かばなかった、というのが実際の所でしょうか。これは、いい悪いではなく、悲しみの中では、人はより悲しい方向で物事を見てしまいがちである、ということがまず確認されているのです。しかし、このところで目指されているのは、このような悲しみが変えられる、否定的な見方は変えられるということです。

二人の弟子

しかし、そのような変化の話に入る前に二人の弟子についての言葉があります。マリアから墓の石が取り除けられているとの報告を受けた二人の弟子は、すぐに外に出て、まるで競争するかのように墓に急いでいます。もう一人の弟子の方が先に墓につきますが、彼は中を覗いてみただけで、墓の中には入りません。一方、後から来たペテロは、墓に入って、中の様子をより詳しく確認し、亜麻布と、イエス様の頭を覆っていた顔の覆いが別の所に丸めてあるのを見た、と7節にありますから、より詳しく状況を把握したと言えます。

それで、このところはいささか複雑ですが、弟子たちの行動の順番として、もう一人の弟子がより早く墓についた、しかし、墓の中に入るのは、ペテロが先、もう一人の弟子が後だった、ということになります。問題は、何でこんなことをかなり丁寧に書き連ねているのかです。ある注解書では、これは、もう一人の弟子の方が優れていることを現わそうとしているのだ、と言います。或いは、このもう一人の弟子は、異邦人キリスト者を代表していて、ペテロはユダヤ人キリスト者を代表しているのだ、それで、異邦人キリスト者の方が先に信仰にたどり着いているのだ、というように言います。たしかにそのように説明できるかもしれません。けれども、二人が道を急いだのは、何としても事実を確認したかったからのはずです。そして、彼らが確認したのは、本当に墓が空っぽだったこと、そして、あたかもイエス様が、遺体をくるんでいる布をその場に残して、すぅーと抜け出すようにして、忽然と消えた、というこの二つの事実です。おそらく、ヨハネがまず伝えたかったこと、それは確かに、この通りにイエス様は墓から消えてしまわれたというこの事実ではないかと思われるのです。そしてこの事実を前にして、一つの喜ばしいことが起きています。それは聖書に対して目が開かれるというありり方です。

理解していない

それで少し話が飛びますが、今日の個所を難しいなと思うことの一つとして、9節の言葉があります。8節であの弟子が「信じた」と書いてあるにもかかわらず、9節では「聖書の言葉を理解していなかった」という事実が語られているのです。それでいったいどっちなのだろう、と思わなくもないのです。結局分かったのか、分からなかったのか、と言いたくなるのです。しかし、おそらくこのところは、弟子たちのそれまでの事実、それまでのあり方を示しているのだと思います。このところにあります「イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。」というのはペテロと、もう一人の弟子、ヨハネと言われていますけれども、二人ともにイエス様と親しく生活を共にし、教えを受けてきた人たちであってさえ、旧約聖書について、それなりに教えを受けて理解していた人たちでさえ、旧約聖書と、イエス様の現実とが結びつくというようには理解していなかった、イエス様が十字架につけられて、墓に埋葬されてしまった、この時点においてもまだ、聖書の言葉と目の前のイエス様の現実とが結びついていなかったと正直に書いているのです。そしてこれこそが、私たちの当たり前のあり方ではないでしょうか。しかし、神様はそれをそのままにされないのです。そして、そのような神様のお働きがこの墓の中から始まったということを示しているのが、今日の聖書なのです。

主を見ました

その関連で、今日の個所の一つ後の段落の言葉を確認します。今日の個所の一つ先、11節からの所でマリアは、弟子たちと入れ替わるようにして墓の前に来ています。そこで、二人のみ使いと出会い言葉を交わしています。その時もなおマリアは、イエス様の遺体が盗られたとの主張を繰り返しています。さらに、彼女の前に、イエス様が直接、現れてくださったのですが、その時にも、彼女は目の前にいるのがイエス様だと分からなかったと書いてあります。ところが、イエス様から直接「マリア」と名前を呼ばれました時に、アッと思って「先生」と叫んでいます。眼が開かれるのです。そしてこの目が開かれたマリアは、イエス様によって伝えるようにと託された言葉をもって弟子たちのいる家に入り、開口一番「わたしは主を見ました」と宣言しているのです。それは、ただ物理的にイエス様を見た、ということではありません。そうではなく、イエス様のお声がけによって開かれた目で見たときに、初めてイエス様がどのような方であるのかが分かったという意味です。そして、実はこれが信じるということの中身です。それは例えば、今日の所で、もう一人の弟子、とだけ書いてある弟子が、墓の中に入って、「見て」そして「信じた」とあるところでも同じことが起きたと考えられるのです。少々細かな話で恐縮ですが、この8節の「見て」という言葉は、マリアが「わたしは主を見た」というところの単語と同じギリシア語の単語だからです。一方、今日の所の最初の方、例えばマリアが石を取り除けてあるのを「見た」というところですとか、5節でもう一人の弟子が、「中をのぞいて」と訳されたところに隠れている「見た」という言葉はまた違った単語です。明らかに、使い分けがされています。この所の意図は、ただ見ているのではなく明らかに、見る＝信じるです。来て、見て、信じる、この時まさに、もう一人の弟子に、そしてマリアに別々の仕方ですけれども、それが起こった、と言いたいのです。

聖書とイエスの語られた言葉

そしてこのことはもっと具体的には、聖書の言葉とイエス様とが結びつく、という形で現れてくるのです。例えば、ヨハネによる福音書2：22ではこんな言葉があります。「イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。」ここでは、イエス様の語られた言葉と、聖書の言葉とが結びついて、それを信じた、と言っています。それもまた、発見です。その場合に弟子たちは何を発見したのかと言いますと、元々ヨハネ2章でイエス様が語られた言葉です。その言葉とは「神殿を三日で建て直す」という宣言でした。周りにいた人たちは、そんなことはできるはずがない、と思ったようです。そして、おそらく弟子たちもまた、初めて聞いた時には、この言葉の意味が分からなかったのです。しかし、後になって、イエス様のご復活を見たときに、ああ、イエス様が言われた、あの神殿とは、イエス様ご自身のことだったのだ、イエ

ス様を通して、神様が私たちに会って下さる、そして、たしかにイエス様は、三日目に復活された、生きた神殿として、即ち神様を指し示す方として、私たちと一緒に居て下さるようになられたというように、あの言葉が分かったというのです。そして、そのようにして開かれた目で見ると、旧約聖書のこの所も、あのところも、イエス様について語っているところだ、このように結びついて見えてきた、というのです。

復活の聖書

この事は当然と言えば当然ですが私たちにもまた、開かれるのです。例えば、先ほどの2章の「聖書」という場合に、イエス様の時代ではわたしたちが旧約聖書と呼んでいるところになりますけれども、その言葉がイエス様のことを、特に十字架と復活とを指し示していると、心から納得できるようにされるのです。それで、今日のヨハネ書の9節で「聖書の言葉」とありますのも旧約聖書のことです。そして、脚注付きの聖書を見ますと、この所には、詩編16編10節だとあります。その所を開いています。せっかくですから、11節までお読みします。「あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず、命の道を教えてくださいます。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／右の御手から永遠の喜びをいただきます。」。脚注にこれが指定されているということは、この詩編の言葉こそが伝統的に、イエス様のご復活を指し示す箇所と理解されてきた、ということです。それはとりもなおさず、最初の教会から、今日に至る、多くの時代のキリスト者たちが、この詩編の言葉を読んで、膝を打った、ああ、イエス様のご復活だと理解してきたということになります。

目が開かれる

同じように、と言えると私は考えていますが、私たちの目の前にも、このひとつの事実が示されています。墓の中にある手掛かりは、遺体がないこと、体をぐるぐる巻きにして包んでいた布が床に置いてあること、顔の覆いは離れたところに丸めて、あるいはたたんであった、という事実です。この事実を前にして、そして、あの詩編の言葉が目の前に置かれています。そして、今ここに、確かに働いておられる聖霊なる神によって私たちの目が開かれうるのです。ああ、確かに、神様は、イエス様を、黄泉に渡すことをされなかったのだ、イエス様に墓穴を見せることをせず、かえって命の道を示されたのだ、今も、生きて私と一緒にここにおられるのだ、そのようにしてイエス様こそは、私たちを命の神様と出会わせてくださる、生きた神殿なのだ、ということへと目が開かれるように招いてくださっているのです。

神の業はここから

そして、わたしたちがこのようにして、復活のイエス様を見つけ出すのであれば、わたしたちは、いつでも、どんな時でも、喜ばしい時だけではなく、たとえ苦難があったとしても、その時々に、その場で、変わらず私たちと共にいて下さるイエス様と一緒に生きていくことになります。このようにして、わたしたちが神様の業に与り続け、イエス様と共に歩む時に、真に麗しい一つのキリストの体としての教会にされていくのです。今日はこの後に、聖餐式があります。聖餐に示されているイエス様の犠牲と愛とを深く味わいたいのです。

祈り

父なる神様、このようにして、イエス・キリストの復活を共に祝うときが与えられましたことを感謝します。私たちは、このキリストの御業によって、すでにあなたのものとされています。そしてそれはただ主イエスの御業を信じる信仰が与えられているからです。私たちが、この復活を信じる信仰をいよいよ確かにされ、復活の喜びを味あわせてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。